

令和4年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 ドイツ文学科・特任教授

申請者氏名 森田 悟

研究課題		E.T.A.ホフマン研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	ホフマンは多才な人物である、しかし、彼が生きた時代、すなわち、フランス革命、ナポレオンのドイツ支配という社会状況がホフマンの作家としての才能をより花開かせたと言っても過言でない。彼はこの時代に法律家としての生活と作家（というよりも芸術家として）としての生活といういわば二重の生活を過ごすことになった。研究では法律家としての生活と彼の文学の関わりを焦点にして両者の相互作用を明らかにしたいと考えている。
	研究の 結果	これまで幾度となく彼の法律家としての活動に焦点を定めて研究を進めてきた。彼は法律家としてどのような態度でどのような事件に関わりを持ったのか。たとえばある殺人犯罪を犯した被告に精神的に異常性が認められるのか、あるいは当時、国家に対して反逆行為をしたとして逮捕された被告が国家転覆の意図を持っていたのか等である。それらの案件についてのホフマンの姿勢は「お化けのホフマン」と言われる様な幻想の世界を描くと言われるホフマン像とは容易に結びつかないということがわかった。しかし実務家としてのホフマンと作家(芸術家)としてのホフマンの相互関係についてはまだ解明できない点が残っている。
	研究の 考察・ 反省	彼が法律家として取り扱った事件についてまだ全て考察が終わっているわけではない、さらに彼の文学作品について法律家としてのホフマンがどの様に反映されているかについて十分研究が終わっているとも言えない。やはり法律家としての彼の文書を読み解くこと自体が難しい点多々あり、当時のプロイセンの法律についても十分な知識が欠如しているという私自身の問題点もある。これらについては今後慎重に文献を読み解き研究を進めていきたいと考えている。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表	現在新たな論文を発表するまでに至っていない。今後、さらに研究を進める予定でいる。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物	